

## 2017年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

### 2017 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

根 来 宏 光 (京都大)

この度は2017年度JUA/AUA Academic Exchange ProgramにてボストンでのAUA参加とデトロイトHenry Ford Medical Centerでの3週間の病院・手術見学をさせていただき、この場を借りて関係者の方々に心からお礼と感謝を申し上げます。

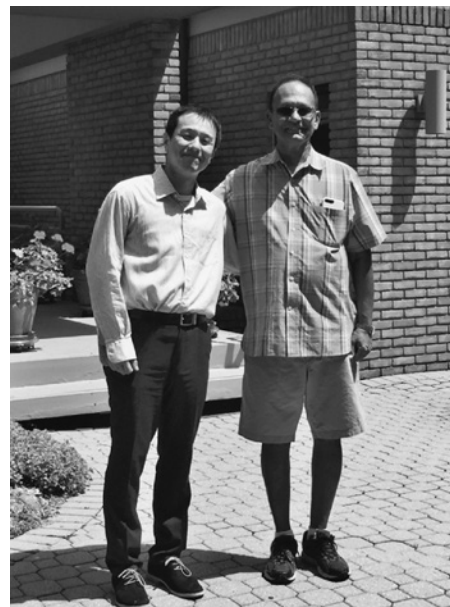
このProgramの一番の魅力は、AUAと病院見学を通して多くの方にお会いしゆっくり話が出来ることにあると思います。AUAの開催期間には、留学先でお世話になった先生方と再会でき、その同窓会にも参加させていただき貴重な経験となりました。Presidents Receptionでは同席したMayo clinicのDr. Scott Swansonご夫妻やブラジルの医師など、本機会以外では接点がない先生方ともお話させていただきました。また留学中に基礎実験のため培養細胞を頂いたDrがケンブリッジにおられ、直接お礼を伝えることができ大変有難く思いました。

AUAは珍しくボストンでの開催でしたが会場や併設するWestin Hotelもきれいで、興味深い内容も多くあり充実していました。発表が初日の朝7時からセッションで終了したこともあり、最後のTake Home Messageまでゆっくり贅沢な時間を過ごさせていただきました。いただいたcourse passを利用して主にロボット手術について学びました。Retzius温存や会陰式RARPなどロボットを駆使したアプローチが印象的でした。Radical Nephrectomy (Nx)やSimple Prostatectomyまでロボットの適応を拡大していましたが、Radical Nxは女性の場合はNOTESとして膣からポートを入れても慣れた視野で行えるというのは確かに利点とも感じました。Henry Ford Medical CenterからRetzius温存術式についてRCTが報告されているので、楽しみにデトロイトに向かいました。

Henry Ford Medical Centerでは泌尿器科は主にda Vinci Siを使用し、RARP, Radical Cystectomy, Radical Nxなど適応も広く、並列で毎日手術がありました。ダブルコンソールのためStaffがResidentに効率的に指導していました。Retzius温存術式も積極的にされていましたが、膀胱前立腺間の剥離や神経温存のラインなど、経験豊富なResidentでもきれいな層に入るのがやや難しい印象を受けました。主任であるDr. Menonは先見の明の持ち主で、様々なアイデアを考えそれを実践されて



Dr. Craig Rogers ファミリーとご自宅の庭でスモア（焼いたマシュマロとチョコレートをクラッカーではさむお菓子 左下）作製中



Dr. Mani Menon とご自宅の前で

おられました。移植グループのXiを使用したRobot Assisted Kidney Transplantationも見学させていただき、繊細な手術手技に感銘を受けました。



左から Resident の Dr. Daniel Pucheril, 濱本先生, 私,  
Senior Urologist の Dr. Wooju Jeong と

Staff, Resident とともにとても親切で、特に Dr. Rogers は家族との食事や Picnic にも連れて行ってくださりました。Dr. Menon には博物館のような豪邸に招待いただきました。現地の麻酔科医とも親しくなり、食事や観光に案内してもらいお世話になりました。個人的なことですが、全米剣道連盟会長・範士八段の先生がデトロイトにおられ、稽古に度々参加させていただきました。稽古後は、毎回日本食のお店での熱い剣道談義で幸せな時間でした。泌尿器科のみならず、さまざまなネットワーキングの機会をいただきました。この Program で一緒した名古屋市大の濱本先生にもとても仲良くしていただき、デトロイトでの 3 週間をより楽しく充実したものとしていただきました。

本機会でいただいた貴重な経験を活かして、今後の医療に取り組んでまいります。最後までお読みいただきありがとうございます。